

施設の短期中期のサービス向上への取り組み

1. 社会福祉法人として、利用者の満足を追求する
 - 1) 生活の安心と快適な生活をつくる。
 - ・親子の自立、母親・子どもそれぞれの自己実現のための支援を、世帯および個別の支援計画に基づき実施する。
 - ・施設が、全ての利用者および入所者（以下利用者）にとって安心して過ごすことのできる居場所となるように、環境の点検・整備を随時行う。
 - ・事故防止推進を目的とする内部連絡会を中心に、「ヒヤリハット」事案の改善を組織的、計画的に遂行する。
 - 2) 支援を求める人との信頼関係づくりに重点を置きながら相談に応じ、支援する。
 - ・利用者の気持ちに寄り添い、「来てよかった」、「つながってよかった」と信頼される対応に努める。
 - ・法令遵守、情報保護、業務の効率向上のために、家族支援システムを運用ルールに則り適切に活用する。
2. 社会福祉法人として、家族支援・地域支援の拠点となる
 - 1) 施設全体が地域の拠点となる。
 - ・ダブルケア世帯等家族支援体制整備・強化に向けた定期情報交換、ボランティア育成講座の共同開催等高齢施設（泉苑）と連携し対応する。
 - ・日々の防災に努め、災害発生時には地域の拠点としての役割を果たせるように、職員の対応力の向上、備蓄等の整備に努める。
 - 2) 地域の実態を把握し、提言・提案する。
 - ・利用者との日々の関わり、関係機関との定期的な意見交換等を通じて地域の声、ニーズを把握して地域福祉の向上に積極的に取り組む。
 - ・2年目を迎える事業所内日祭日保育「しらとりホリデイルーム」を活かし、地域の保育ニーズに対応する。
3. 社会福祉法人として、核となる職員の定着・安心の実現
 - 1) 組織力の強化
 - 各々のリーダーを要とする情報共有体制を整備し、全ての職員が個々の役割を担いながら、互いに補完し合い利用者への支援を行う。
 - 2) 働きやすい職場環境の見直し
 - 「ストレスチェック」の導入、有休取得率の向上他、全ての職員の安全衛生を推進する。
4. 社会福祉法人としての経営体制の確立
 - ・年間入所率（稼働率）95%以上を目指し、これまでと同様積極的に広域利用受入れを推進する。
 - ・母子（父子）緊急一時保護利用増のために、関係機関との連携を強化する。

施設の取組

- ・防犯カメラの増設、日中・夜間それぞれのスタッフの適正配置等施設内安全管理体制の改善、整備
- ・災害時事業継続計画の見直し、危険個所の点検・修繕の随時実施
- ・各部署横断メンバーによる、「事故防止推進委員会」の実施（毎月）
- ・白鳥寮母子心理支援体制の充実および直接処遇職員との連携強化
- ・専門員による白鳥寮利用者就労支援の充実
- ・ボランティア「武蔵台地区サポーター」の育成
- ・「しらとり学習サポートサロン（仮）」活動の充実
- ・サービス事業利用率向上に向けた積極的広報活動の実施（トワイライトステイ、母子（父子）緊急一時保護）

